

安全な水を世界中に

国分寺市立第三中学校

一年B組 上田 華

みなさんは、普段、水について考えたことはありますか。私は、テレビ番組を見て、水道水をそのまま飲むことができる国は、日本を含むわずか十二か国しかないと知りました。日本に住む私たちにとって、水道水を安心して飲めることは当たり前です。それに、私は、毎日大量に使っている水が使えない状況

なんて考えたことがありませんでした。私は、この機会に、水について考えてみることにしました。

なぜ多くの国が、日本のように水道水をそのまま飲むことができないのか、調べてみました。大きな違いは、水道法です。水道法とは、水質基準や施設基準などの、水道事業の運営に関するルールを定めた法律です。日本のきれいな水道水は、この「水道法」という厳しい法律に基づいた、徹底した水質管

理とインフラ整備によって、作られているのです。また、日本は年間を通して降水量に恵まれているため、安定した水源があります。なので、私たちは水道水をそのまま飲むことができます。ですが、多くの国には、水道法のような厳しい法律がありません。また、資金・技術が不足しているため、インフラ設備が整っていないません。国の環境や気候によって、安定した水源を得ることができないという場合もあります。そのため、水道水をそのまま飲むことができないのです。私は、このことを知り、日本ほとても恵まれていて、水道からいつもきれいな水が出てくることは、当たり前前ではないのだなと気づきました。ところがある日、ニュース番組で、異常な暑さと、降水量の減少によって、水不足が起きている。そのせいで野菜や米の収穫量に影響が出ている。ということを知りました。自分には関係ないと思っていた水不足が、身近で起きていたというのに驚きました。日

本での水不足について調べてみると、
 チャールウォーター問題と出てきました。
 1チャールウォーターとは、輸入したものを、
 もじ自国で生産するとしたら、どれぐらいの
 水が必要かを推定したものです。私たちは、
 輸入されたものを使うたびに、間接的に海外
 の水も輸入していることになり、膨大な水を
 海外に依存して過ぎしていたのです。もし、
 依存先の国で水不足が起これば、どうなるで
 しょうか。世界の水不足は、日本にとっても関係
 がある問題なのだ実感しました。自分にで
 きることは何かを考えるきっかけになりました。
 た。
 私たちにできることは三つあります。一つ
 目は、節水です。歯磨き、お風呂、手洗いの
 ときに、こまめに水を止めるだけで、大幅な
 節約になります。血洗いのときは、ボウルに
 水をためて、油汚れをふき取ってから洗うと
 良いと思います。これは、水質汚染を防ぐこ
 とにもつながります。節水を意識して生活す

ると、水の無駄遣いがたくさん見えてきます。二つ目は、世界の水不足の現状、解決のための取り組みを知ることです。まずは、世界の問題に意識を向けることが大切です。知ること、他にも自分ができることが見つかるかもしれません。三つ目は、寄付をすることです。ユニセフや国際NGOなどへの寄付ができます。現地に行くことができない私たちにあって、一番直接的な行動です。

日本は、水資源にとっても恵まれています。

一方で、世界には深刻な水不足に悩まされている国が多くあります。そんな世界の水不足は、日本の水不足と無関係ではありません。水不足を改善するには、一人一人が自分ですることをするという意識をもって生活することが大切だと思います。私はこれから、水道水を安心して飲めるこの環境に感謝しながら、私ができることに取り組んでいきたいです。